

1 はじめに

本校区は、地域で子どもを育もうという意識が高い。そろばん教室、剣道会など、地域が主体となった子どもの指導が行われており、在籍しているの児童の中にも、幼少時からそろばんや剣道を続けている児童がいる。

このような地域にある本校には、「ひびき集会」で行う「川名津（かわなづ）神楽」という伝統的な行事がある。全校35名の本校児童は、学校だけでは自己表現する機会はそう多くないため、地域の方々との交流の場も生かした表現活動の充実を目指している。

2 川上小学校伝統の「ひびき集会」

本校区の神楽保存会が演じる「川名津神楽」は四国一の完成度であると、以前新聞でも取り上げられた。人並み以上の努力とこだわり、そして、伝統を大切にしたいという気持ちが作り上げた川上地区を代表する伝統芸能の一つである。

その川名津神楽保存会の方々が、小学校児童にその伝統を伝える「ひびき集会」も毎年恒例になっており、今年度で10年目を迎えた。この集会で、保存会の方から6年生に伝えられた神楽を地域の方々に披露している。

総合的な学習の時間を利用し、週2時間のペースで練習を続け、7月に披露するまで、保存会の方々による熱心な指導が続く。その思いに応えるべく、6年生は、家に帰ってからも自主練習に励んだ。今年度は、2人の6年生が「飛出（とびいで）舞」を演じた。熟練の保存会の方々が、手取り足取り教えてくださったおかげで、大盛況のうちに、ひびき集会を終えることができた。

この行事が始まってから、児童は体全体を使って演目を表現すること、自分たちが披露する演目への思いを言葉で伝えることができ始めた。教科の学習だけでは十分身に付けることのできない貴重な体験である。

「ひびき集会」を終えると、総合的な学習の時間のみならず、授業中の表現力にも変化が見え始める。まず、声の張りである。場に応じた声の大きさと、発表することができるようになる。次に、自分の考えをもち、堂々と表現することができるようになる。

3 おわりに

「ひびき集会」を経験することで、子どもたちは、地域の伝統を受け継ぐだけでなく、表現する力を身に付けていく。今後も地域の協力を得ながら、継続して取り組んでいきたい行事である。



児童が演じる川名津神楽



飛出舞を演じる児童